

平成21年度経営構造対策 県・市町村・農業委員会・農協等 担当者会議を開催

平成21年5月7日に村山総合支庁北庁舎講堂において、県内各市町村・農業委員会、農協、県総合支庁農業振興課・農業技術普及課、県経営安定対策課の各担当者86名が参加し、実践農業者の講話と経営構造対策事業及び関係機関・団体の関連事業の説明会を行いました。

開会にあたり、当協議会設楽事務局次長より次のような挨拶がありました。

食料自給力、自給率の向上が喫緊の課題になっている。その基盤となる担い手の高齢化、農産物価格の低迷、耕作放棄地により基盤が危惧されている。農地法関連法の改正による農地の効率的な利用、一般企業の農業参入、水田経営所得安定対策等、様々な施策が一体的に講じられている。また、農工商連携促進法により、産業間の壁を越えた連携による地域活性化に向けた農を起点とする新たな6次産業化として、食関連ビジネスの展開が期待されている。

農業は今、岐路に立たされており、農政に携わる者として、情報交換を密にして、農業活性化の一端を担わなければならないと思う。

協議会事業のほかに、県、JA中央会、農業支援センターの事業説明を行う。また、新しい農業ビジネスについて、若い農業の担い手よりご講話をいただくことにしている。日頃の業務の参考にして下さい。



例年、事業の説明に入る前に、地域で幅広く活躍されている担い手の講話を拝聴しております。

今年は、村山市大槇の高橋菜穂子氏にお願いしました。「農業は、若者の職業です！～農業ブーム到来 追い風に乗って、でもブームで終わらせない～」の演題で、就農までの決意、女性担い手として、自分の農業スタイルを模索しながら、国立ファームの山形農

場をスタートするまでの経緯と農業経営に描いている夢や実現のための思いについて、また、地域農業の活性化に向け、若手後継者の創造心を呼び覚ますことの重要性を熱く語っていただきました。

就農して5年目になる。大学の教育実習を経験時に改めて就農を考えた。地元に戻り、就農について周囲、家族から理解されなかった。これには、自分達が農業をやってきたのに、農業をやるなど言われ、不思議であり残念でもあった。

家ではサクラambo・リンゴ・米・野菜を生産・販売しています。就農時は、学生時代に家から届く宅急便の評判から、お客に直接届けたいと思いがあり、直販し、人づてに販路を拡大し、やりがいを感じた。

2年前に国立ファームに出会い、社会に対し活動を強めるために入った。国立ファームは、八百屋、中食、農家レストラン「農家の台所」を展開している。「農家台所」のキーワードは「旬のオンリーワン野菜」、安定供給よりも旬に徹し、基本スタンスは「美味しいよりも面白い」、腹一杯の満足度30%、知的好奇心の満足度70%の店にしている。サラダバーでは珍しい野菜、多種多様な品種を沢山揃え、全て生食にしおり、例えばピーマンは種をそのまま食べる。お客には色々な野菜があることに気づいてもらい、直販もして、栽培者のPRも行っている。米であれば、毎月違う米を出している。お客を楽しませることに徹している。

今、農業ブームが来ている。お客に一番近いところから初めて生産までチームで取り組んでいる。冬期はバイヤーとして山形の美味しい野菜（オオナ



ルキュリ、藤沢カブ、雪ウルイ、だだちやまめ)を、国立ファームに紹介するパイプ役をしている。また、店頭販売の営業を通して、お客を喜ばせることの重要性、何を求めているのか、それを見極め作付けしなければならないこと、お客の足を止める演出も重要であることを知った。

若い女性農家は少なく、珍しい存在



である。自分と同世代の女性に農業を伝える活動をしている。宿泊所を整備し、平成 19 年 9 名、20 年 8 名を受け入れた。そして、今年 4 月より、女性だけのガールズファームを始めた。人材を募集し 2 名を採用して、一緒に仕事をしている。

女性にこだわるのは、自分が女性であり、就農しても認めてもらえなかったので、女性でもできることを証明したい。女性は流行に敏感な感覚を持っており、細やかな手作業も得意であり、それを活かした商品開発をする。

今の女性は「キレイ」「簡単」「カッコイイ」に惹かれる。これを農業に実現する。食べる人、作る人もキレイで、力のいらない簡単な栽培方法で、自立した女性の仕事としてカッコイイ儲かる経営を実現する。

漢方米（漢方薬を肥料・農薬に使用）、カラフルミニトマト（養液土耕の栽培方法）、ガールズベジ（生産から販売まで女性しか触らない野菜）に取り組み、農業のマイナスイメージとは逆のイメージ戦略で仕掛ける。

今後、農業をやりたい女性は増えると思う。新規参入者を歓迎するが、農家の若い後継者も貴重な人材である。若手後継者には自分のやりたい農業がまだ分からない人も多い。向上心を呼び覚ます働きかけをして背中を押していただきたい。

商業が農業に踏み込んできている印象を受けている。これからの個人経営に不安も感じている。しかし、農家を継ぎ、まもる自分達は負けてはいけない。自分の農業を商業化して、6 次産業化に向けて 1 歩 1 歩実現して行く、支援をお願いする。



講話に引き続き、平成 21 年度の事業の説明を行いました。

山形県農林水産部県経営安定対策課からは、強い農業づくり交付金等の事業について、当協議会からは山形県経営構造対策推進協議会の事業内容及び関連事業として地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業について説明しました。

また、関係機関・団体等の事業として、山形県農協中央会の事業計画、やまがた農業支援センターより、担い手育成支援関係事業概要及び農地保有合理化事業の概要の説明と農地改革プラン要点について説明がありました。